

大学病院実習期間中における学生の感染症への対応について

大阪医科薬科大学

1. **病院実習に参加可能な条件（感染症罹患に関するもの）**

以下のような、感染症を疑う症状がないことが病院実習参加の条件となります。

- 発熱（目安として37.5℃以上）
- 咽頭痛、咳嗽、痰、鼻汁、鼻閉などの上気道症状
- 繰り返す嘔吐、下痢、持続的な腹痛などの消化器症状
- 著しい結膜充血、眼脂などの眼症状

2. **病院実習期間中の注意事項**

- 実習期間中は、各自で日々の健康状態を確認してください。
- 1.で述べた体調不良が認められるなど、感染症を疑う症状がある場合には、実習に参加せず、速やかに実習担当者に連絡し指示に従ってください。

3. **病院実習時の感染対策**

- 実習中の学生のマスク着用は原則任意とします。ただし、マスク着用が必須の病棟・部署ではその指示に従ってください。
- 実習中に不意に咳やくしゃみ等が出現した場合には、咳エチケットを徹底してください。
- 病棟においては、患者接触前後など適切なタイミングで手指衛生を実施してください。
- 市中や病棟の感染症流行状況に応じて、マスク着用等が要求されることがあります。

4. **病院実習期間中に学生が感染症に罹患した際の対応**

※実習部門・部署により対応が変わることがあります

● **新型コロナウイルス感染症に罹患した場合**

出席停止期間は、発症日を0日目とし、5日目を経過し、かつ症状（発熱、強い咳症状等）軽快後2日間を経過するまで

実習再開後5日間は、病院内ではサージカルマスクを着用してください。5日以上経過しても咳症状等が残っている場合はマスク着用を継続してください。

● **インフルエンザに罹患した場合**

出席停止期間は、発症日を0日目とし、5日目を経過し、かつ症状（発熱、強い咳症状等）軽快後2日間を経過するまで

実習再開後5日間は、病院内ではサージカルマスクを着用してください。5日以上経過しても咳症状等が残っている場合はマスク着用を継続してください。

● **感染性胃腸炎と推定される感染症に罹患した場合**

出席停止期間は、嘔吐・下痢症状が改善し、1日間の経過観察後、再燃が無いと確認できるまで

● **流行性角結膜炎に罹患した場合**

眼科医により治癒診断が為されるまで。

5. **同居者等が感染症を発症した際の対応**

出席停止は求めないが、感染した同居者の症状消失、または同居者との最終接触日を0日目とし以下の期間は自身の健康観察を厳格に行ってください。体調不良がみられる場合は直ちに実習を中止し、1.～2.に従ってください。

新型コロナウイルス感染症：5日目までサージカルマスク着用＋健康観察

インフルエンザ：5日目までサージカルマスク着用＋健康観察

ウイルス性胃腸炎：3日目まで健康観察

流行性角結膜炎：14日目まで健康観察

6. **その他**

記載のない感染症や判断に迷う場合は実習担当者へご相談ください。